

(様式4)

令和4年3月11日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立滑川高等学校
校長 亀谷卓朗

令和3年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

令和3年度学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

昨年度のコロナ禍で、縮小された本校教育活動のアクションプランを踏まえ、ウィズコロナ2年目として感染対策と生徒目線の両方の視点に立ち、得られる教育効果を大切にしながら、各重点項目及び重点課題の達成目標を設定した。

授業への主体的な参加、家庭学習時間の定着、SNSマナーやスマートフォン使用に関する自己管理能力の育成、進路目標実現のための支援、学習との両立を目指した部活動の活動状況、生徒の自主的な特別活動への取り組み方等を掲げて、目標の達成に努めてきたところ、どの項目においても取組状況における効果の差はあるものの、概ね昨年度を上回り評価基準のA、Bに達したと思われる。

学校評議員からは、本校の教育活動に関し、忌憚のないご意見をいただくことができた。高校生活の3年間を有意義に過ごすために、より創造的に行動できる生徒づくりを目指して取り組んでほしい。自分の持っている実力を日々出し切っていく習慣を身に着けさせてほしい。そのために、授業以外に興味のあることは何か、自らどんな資格取得が取りたいのか、一生役に立つ資格や生き方とは何か、等を考えさせてほしい。現状の枠を超えてチャレンジする高いモチベーションを身につけさせてほしい。今やっていることが将来役に立つという思いで目標に向かうことや、うまく社会を生きぬくために自分をどうコントロールするかという術を学び続けてほしい。など、学校に対し中・長期ビジョンに立った総括的本校の在り方についての示唆をいただいた。

7 次年度へ向けての課題と方策

県東部を代表する総合高校として、普通科の進路意識向上を目指した特色化と、薬業科・商業科・海洋科の専門性の伝統と進化を追求し、興味あふれる高校像を広く地域に発信し、いかに中学生を魅了できるかを模索していきたい。そのための特色化の具体策、伝統継承の分析と新たな視点の検討等、次年度の教育活動に加えていきたい。

(様式5)

8 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

①学習活動 ②学校生活 ③進路支援 ④特別活動 ⑤その他

令和3年度 滑川高等学校アクションプランー1ー	
重点項目	①学習活動(2)学習指導
重点課題	教科指導の充実と学習習慣の定着
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会等で指導方法について話し合う時間の確保が難しいのが現状である。 ・家庭学習時間が少ない。
達成目標	① 生徒が主体的に授業に参加できるように、指導方法の改善と充実を図る。 ② 学習意識調査において、参加型授業を受けたことがあると答えた生徒の割合 75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業週間や研究授業などの機会を活用したり、他校を視察したりして、授業研究を行い、改善に努める。 ・教科部会や校内メール、科内回覧等を利用して、よりよい授業のあり方等について研究・情報共有に努める。 ・年間指導計画の活用を工夫する。
達成度	① コロナ感染症の影響で、「密」を避けて授業を行う開校が定着したことに加え、2学期は夏季休業が延長になったことやオンライン授業の導入などにより、授業の参加率は66.8%(R1 65.0%)と微増した。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒へのタブレット完全貸与、教室におけるプロジェクタの設置など、授業を行うための環境は十分整っている。今年度の互見授業においては、生徒にディスカッションや意見の発表を求めなくても、これらの機器を使用して生徒に資料を提示し、考えさせる授業が多々見られた。これらの動きが教員間の話題提供や、授業改善につながっていると考えられるので、環境を整えば達成度は向上すると考える。
評 価	B <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用することについて、さらに教師側の技能を向上させていく必要がある。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、感染に配慮しつつ学習を進めることは困難だったと思われる。ICT活用であっても生徒が学習の充実感を味わえるよう工夫を願いたい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学習態度及び学習習慣の定着

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和3年度 滑川高等学校アクションプランー2ー	
重点項目	②学校生活 (6)生徒指導 (7)保健指導
重点課題	・スマホ依存の防止 ・環境美化
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン等の長時間の利用による生活習慣や学習習慣が乱れている生徒が多くみられる。また、SNSにおける個人情報の取り扱いや不適切な書き込みなどによるトラブルが生じている。 ・環境整備に取り組む姿勢は全体的には良くなっているが、清掃開始が遅れたり、清掃活動に積極的に参加できなかつたりする生徒も見られる。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ① スマートフォン等の使用に関する自己管理能力の育成とインターネット上のルールやマナーの徹底を図る。 ② 帰宅後のスマートフォン等の1日の使用時間が3時間以内の生徒の割合70% <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備、美化活動を習慣化するための環境美化委員会を中心とした自主的な活動を図る。 ・年間8回 (各学期の美化週間、5月・10月の中庭花植え、7、8月の除草や水遣り、8、12月の長期休業中の部活動におけるトイレ更衣室の掃除など)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自発的な意識づけを行うために風紀委員や生徒会による注意喚起を行う。 ・適切な利用について保護者と連携して、家庭でのルールづくりを徹底させる。 ・研修会等を開催し、ネットに関わるトラブルの発生を未然に防ぐ。 <ul style="list-style-type: none"> ・美化週間を学期に1回設定し、環境美化委員会を中心として、外清掃を含む清掃活動の強化を図る。 ・日常的に清掃を中心とした環境美化において全教職員でさらに粘り強く指導する。 ・花壇や中庭などの整備を行うことにより、情操教育の一助とする。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ① 携帯電話に関する違反の件数、授業中の違反9件(昨年度8件)、授業以外での違反13件(昨年度11件) ② 帰宅後のスマートフォン等の1日の使用時間が3時間以内の生徒の割合1学年50%→50%、2学年32.5%→70.6%、3学年60.5%→55.5%、全体47.4%→58.3% <p>(1学期→3学期) (各学年より抽出したクラスで調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員の活動は、ほぼ目標通りに行うことができた。 ・美化週間については、清掃重点箇所を環境美化委員が自ら決め、積極的に取り組んだ。 ・清掃活動も全教職員がていねいに指導することで、生徒の美化意識も高まったと感じる。 ・中庭の花植えについては、COVID-19の状況を憂慮し、6月のみ行った。7・9月に環境美化委員で一斉に除草を行った他、8月は水やり・除草の当番を決め取り組んだ。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ① ショートタイムやホームルームで各担任に携帯電話の使用ルールの周知を呼びかけてもらい、かつ、全教職員の協力を得て、昼休みに校内巡視を実施した。 ② 学期ごとに発行する「生徒指導通信」等を利用して、折に触れて生徒の意識付けを図った。 <p>ホームルームの時間にクラスごとのスマホ使用についてのルールを決め実施するように呼びかけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期の美化週間活動により生徒に清掃、環境美化の意識定着を啓発した。 ・情操教育の一環として中庭花壇の植栽活動を行った。

<p>評 価</p>	<p>① C</p> <p>② B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業以外の違反件数は、1年生が9件で多かった。先生方の日常的な声かけが功を奏した。 ・コロナ渦で自宅にいる時間が増えたが、1学期から3学期を比べてみると使用時間が減少した。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員が中心となって活動している。学校の環境美化への取り組みは、落ち着いた学習環境の形成の一助になった。 ・清掃活動は、全校生徒が積極的に取り組んだ。
<p>学校評議員の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン依存症が若年世代を中心に増加している。様々なトラブルに対応する学校側の体制や、生徒への心的配慮が重要である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・清掃の回数や清掃の時間帯を、生徒自らで考える機会が環境美化に対する意識変化につながるのではないかな。
<p>次年度へ向けての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生のスマホ・携帯電話使用について、マナーやルールを遵守するように意識を高める。 ・家庭での使用についてのルールを決めるなど家庭との連携を十分に図る。 ・使用時間の短縮を図ると共にSNS等を通して事件やトラブルにならないように注意喚起を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防対策として、個人的なごみを家に持ち帰り、教室等へは捨てないように呼びかける。また、手洗いや消毒等の徹底を図る。 ・清掃の開始時間について教師、生徒が共通理解し速やかに取りかかるように図る。 ・環境美化の更なる徹底と落ち着いた安心感のある学習環境の向上を図る。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和3年度 滑川高等学校アクションプランー3ー	
重点項目	③進路支援 (4)進路指導
重点課題	進路目標の早期設定と実現の支援 昨年度導入された学びの基礎診断を活用して、指導の工夫や学習改善を行う。
現 状	・生徒たちは進路について考える必要性を自覚してはいるが、具体的に目標を決めてから実現に向けて努力する期間が短くなりがちで生徒が少なくない。
達成目標	① 2年生の3学期までに具体的な志望校、志望学部・学科を決める生徒の割合 ② 第1志望大学への合格率(3年9月志望) ③ 成績が伸びた生徒の割合(1,2年)
	④ 基礎学力の定着に向けた面談の実施率 ⑤ 希望する職種に就職が内定する生徒の割合
方 策	① 70%以上 ② 50%以上 ③ 60%以上
	④ 100% ⑤ 100% (一般企業52名)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導を通して進路目標を徐々に具体化させる。 進路講話や出前授業、研修旅行、大学訪問などの行事を充実させ、進路について考えるきっかけとする。 校内テストや外部模試の結果を基に自分の学力を把握させ、一層の努力を促す。 オープンキャンパスへの積極的参加を促すため、面接指導、保護者会等とおして参加する重要性を周知・認識させる。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の様々な場面において礼儀やコミュニケーション能力が身に付くよう指導を行う。 生徒が自己の能力や適性を知り、どのような職種・企業でそれらを発揮できるのか考えることができる情報・機会を与える。 生徒の能力と適性に応じた個別指導を行う。 就職支援アドバイザーとの連絡を密にし、就職内定のための支援を行う。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ① 普通科 98.7% 薬業科 97.5% 商業科 100% 海洋科 100% ② 私立の大学・短大の推薦はほぼ100% 国公立推薦は56% (25名中14名合格) ③ 模試のデータが揃わなかったため、評価できなかった。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ④ 各学期に設定されている面接週間等を利用して、担任は各々面談していた。 ⑤ 100% (一般企業52名)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策のため、進路学習や職場の先輩と語る会は、オンラインでの実施に変更した。オンラインでのメリットや可能性が分かった。 ・受験勉強を推進するために、特別補習を実施するだけでなく、放課後や長期休業中に積極的に教室に残って自主学習させた。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業や富山大学訪問は感染が拡大する前に7月に何とか実施することができた。 ・応募前職場見学に積極的に参加させた。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ① B ・進路未定者は減ったが、具体的な目標設定のために取り組みを継続させたい。 ② A ③ -
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ④ B ・就職希望者は全員内定を得ることができた。 ⑤ A
学校評議員の意見	・大学に進んでも“何をしたいか”を考えて進路を決めないと、実際に大学に進んだとしても目的を失う。目的は変わっても構わないが、長期的将来を見据える重要性も指導が必要である。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会が求める人材の視点を取り入れながら、生徒の進路実現を支援する。また、地域の要望に応じた人材育成に力を入れる。 ・生徒の段階に応じた適切な情報提供と面接指導により、進路目標を具体化させる。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特色、各学科の取り組みや学習内容を積極的に地域社会に発信していきたい。 ・生徒各自がしっかりと納得できる進路目標の達成に向けて、積極的に支援していきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和3年度 滑川高等学校アクションプランー4ー

重点項目	④特別活動 (5)特別活動	
重点課題	自主的な活動を促す組織作りと学業と部活動の両立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・指示を聞いて正しく行動をとることのできる生徒は増えたが、自らがリーダーとなって責任を果たそうとする生徒が少ない。 ・学校行事には熱心に取り組む生徒は多い。しかし、与えられた活動に乗るだけで、自ら改善点を考えたり向上させようと関心を持つ生徒が少ない。 ・学習と部活動の両立を図るための指導が十分といえない。 	
達成目標	①学校行事やホームルーム、生徒会活動等において役割や責任を持ち、積極的に関わることができたと感じる生徒の割合	②学習との両立を目指して、部活動の内容や時間を工夫し、充実感を持てた生徒割合
	・80%以上	・80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事や各種取り組みにおいて、生徒が主体的に活動できるよう動機付けをする。 ・組織や役割分担を明確にすることで、リーダーを育てると共に、互いに連携し支援し合えるように指導する。 ・各クラスに学級長を配置し、生徒議会などを通してクラスの意見を吸い上げ、学校全体で行事や生徒会活動に関わりあえる組織作りを意識させる。 ・先を見通したHR計画、またテーマの設定や討議資料の作成、事前研究などの準備をすすめる、その反省をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部の目標を明確にし、その達成に向けて計画的に取り組む。 ・積極的に休養日を設け、活動にメリハリを付ける。 ・部活の開始前、終了後の指導を強化し、家庭学習への取り組みについても指導する。 ・部活動指導員やスポーツエキスパートを活用し、教員の負担を軽減させながらも部活動の活性化を図る。 ・生徒会・学級長や部活動代表者を集め携帯電話のマナーや使用について、共通理解を深めるように指導する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果、学校行事に積極的に参加した生徒は「体育大会」が79.8%、「学園祭や芸術鑑賞会」が89%「生徒会・委員会」が78.5%と目標には達していないが、94.5%の生徒が学校行事や部活動の際に感染対策を行ったり意識したりして参加できた。 ・リーダーとしての貢献度を感じる生徒の割合は43.5%に止まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果、80.3%が「学習と部活動を両立させるよう努力している」と答え、昨年より伸びた。 ・83.4%以上が部活後に速やかに下校できていると答え、「すき間時間」を利用して学習していると答えた生徒は71.9%となった。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会や、学園祭、学校PR活動などを通して学科、委員会、文化部等の成果を発表できる機会を設けた。 ・学園祭では、各学年実行委員会（生徒会、クラス役員、委員会等）の生徒が中心となって準備を進めた。実行委員を立ち上げたことで、生徒の意識も高まった。 ・感染防止対策を徹底しながら、企画や活動方法を工夫し活動の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大の中での部活動や施設の利用については、部の顧問、部長と連携しながら、部室や更衣室の利用方法や活動方法を工夫し、感染対策を十分講じた上で充実した部活動ができるよう促した。 (感染対策を行ったり意識したりした生徒94.5%) ・外部施設の利用により活動場所の不足を補い、練習時間の効率化に繋げた。
評 価	B <ul style="list-style-type: none"> ・自分が中心となって活動できたと感じる生徒の割合は昨年より増えたが、受動的に行事などに参加して満足感を感じる生徒が多い。 ・小さな事でも役職を与え、実績を評価していくことによって生徒の成長につながった。 ・女子生徒がリーダーシップをとり、行事の中心的役割を果たすようになった。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・学習と部活動との両立について、努力している生徒が増えよい傾向である。 ・部活動では、2年ぶりに通常通り高校総体やコンクールが開催されたが、昨年度の経験から、自ら手指消毒、健康観察などの感染予防対策を行いながら工夫して活動に取り組む生徒が増えている。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学習と部活動の両立し努力している生徒が増加した。チームの1人として仲間迷惑をかける心がないと思う心が育っている。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学校行事などに安心して参加できるよう、感染対策を行い、内容や運営方法を工夫する。また、通年でのボランティア活動などでは、オンラインを活用するなど活動の機会を増やし生徒会を中心とした学校全体での取り組みをより充実させる。 ・学年学科で連携をとり行事の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員と生徒が力を合わせて、文武両道の実現を目指していく。 ・活動方針、計画などを話し合い、自主的な部活動運営となるよう指導する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和3年度 滑川高等学校アクションプランー5ー

重点項目	①学習活動 ③進路支援 (8)(9)(10)専門学科指導		
	< 薬業科 >	< 商業科 >	< 海洋科 >
重点課題	資格取得の充実	全商簿記検定資格取得の充実	①水産関連等の資格・検定取得の推進 ②生徒の学習に向かう問題点を把握・解析
現 状	・資格取得が生徒の学習意欲を引き出している。 ・部活動と学業の両立を目指している。	・検定試験の難易度が高くなっており、合格者数が伸び悩んでいる。	・基礎的な教科の学力不足・各種検定・資格試験の合格者数が伸び悩んでいる。 ・一方で甲種危険物やQC検定3級、二級ボイラー技士などへの挑戦が近年増えてきた。 ・とは言え、総じて家庭学習時間の不足が恒常的に改善しない。
達成目標	①学年ごとの危険物乙種第4類取得者、危険物乙種全類取得者、危険物以外の資格検定に取り組む。 ・危険物乙種第4類 1学年80%、2学年95% ・危険物乙種全類または甲種 2学年80%、3学年90% ・品質管理検定を受検する。	②全商簿記実務検定試験の合格者数と割合 ・1級合格者数60% (24名)以上 (全国平均30%台)	③水産関連等の資格・検定取得数 ④マリンマイスター申請者率の向上 (全体の底上げ) ⑤甲種危険物合格者1名以上の輩出 ⑥生徒の現状と課題点を表出させる ・1人年間3つ以上 ・申請率80%、プラチナ・ゴールドが申請者の40%以上 ・合格者1名以上
方 策	・危険物乙種全類または甲種の取得を目指し、学力補充を支援する。 品質管理検定に取り組む。 その他の資格 (P検、英検、漢検など) で基礎学力を充実させるよう意識付けをする。	・朝学習の効果的な活用。 ・放課後補習の実施。 ・生徒個々の学習状況を担当者で把握。 ・3年の課題研究に簿記検定試験コースを設け、指導の充実を図る。	・家庭学習時間の増加 ・基礎学力の補充を充実し、苦手科目の克服を支援する。 ・資格への意欲を向上させ、取得を目指し個別対応を充実させる。 ・生徒アンケートと自己評価シートとの運用
達成度	・乙種全類または甲種合格 3学年87.5%、2学年25% 乙4類合格 2学年85%、1学年27.3% ・品質管理検定3級3学年8名合格 ・登録販売者試験3年4名、2年4名合格高校生初合格	・1月検定2年生38名受験のうち19名が合格。特に2科目のうち、原価計算については9割が合格した。 3年生は計32名が1級を取得。取得率80%。	・3年生の合計取得数は393 (平均9.6個)。コロナ禍で未受検資格もあった中で健闘。 ・1、2年生の9月の家庭学習時間は、4月に比べ減少した。 3年生は昨年同月とほぼ横ばいであった。 ・マリンマイスターは申請率が85.4% (77.8%) であった。内訳はプラチナ1(3)名、ゴールド11(14)名、シルバー23(11)名となった。申請者に占めるプラチナ・ゴールドの割合は34.3% (60.7%) と減少した (カッコ内は昨年度)。 ・タブレットで学習調査を複数回行ったが検討段階といえる。実習では自己評価シートの運用が定着した。 ・伊予を巡る地域連携の調査研究活動が全国大会で高評価を受けた。
具体的な取組状況	危険物取扱者試験は丙種・乙4類受験者を対象に朝補習を実施している。	・放課後補習の実施。 ・個別指導の充実。 ・3年の課題研究に簿記検定試験の講座を設け、取り組ませる。 ・教員間での問題の分析。	・上級資格受験の斡旋、積極的な動機付け。個別指導の充実。 ・「対話的、主体的で深い学び」の実習や個別アソートを実施 ・全国最優秀賞、優秀賞等を獲得した。

<p>評 価</p>	<p>B 危険物取扱者試験は2月に試験を残しており、さらに合格率が上がる予想である。</p>	<p>A</p>	<p>2年生の合格率は50%、3年生の取得者は80%に到達し、目標は達成した。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 平均9個の目標は達成し、マイスター申請率は目標達成したが、ゴールド以上の割合が大幅に減少した。コロナ禍で中止となった資格もあった中でよく健闘した。 タブレットを使用したアンケートは教員側の時短 <ul style="list-style-type: none"> 省力化が期待出来た。 地域連携の新しいあり方が具体化した。イワシ研究、ANA ホテルとのコラボは継続させる。
<p>学校評議員の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> 専門学科の様々な取り組みを評価する。生徒の可能性に期待して更なる資格取得を目指して欲しい。 高度なレベルの資格取得の向上を目指し、生徒たちは自ら自身を持ったと思う。これからも資格取得を楽しんで、知識をさらに磨いて欲しい。 			
<p>次年度へ向けての課題</p>	<p>登録販売者試験に高校生として初めての合格者を出すことができた。次年度以降も継続したい。危険物取扱者試験は地道に対策していく。</p>	<p>2年生は、6月にもう一度受験の機会があるので、今年度の3年生の80%を達成できるように授業改善等に取り組みたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多様な選択科目の魅力を発信し、個々の資質・能力に応じたや学習を推進し、希望に添った進路実現を目指す。 主体的に取り組める環境作りに努め、「深い学び」につながる指導を考案する。 より高度なマリンマイスター取得者数の増加を目指す。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和3年度 滑川高等学校アクションプランー6ー

重点項目	⑤ その他 (12) 地域との連携・協力	
重点課題	P T A活動の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会について、第1回100%、第2回80%、第3回79%、第4回84%の参加率であった。 ・P T Aだよりを年3回発行している。 ・滑川高校ホームページやリアルタイム共有システムによる情報発信を行っている。ホームページの更新がやや停滞していることにより、学校の魅力を伝えきれていないところもある。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会の高い参加率の維持 	<ul style="list-style-type: none"> ① ホームページの更新 ②リアルタイム共有システムへの登録
	<ul style="list-style-type: none"> ・70パーセント 	<ul style="list-style-type: none"> ①迅速な情報発信と内容の充実 ②全学年保護者登録100パーセント
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・P T Aだよりなどを通して、P T A活動への関心を高め、参加を促す。 ・役員会の案内を早めに配布し、出欠確認を行う。状況によっては、生徒を通して、確認する。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回90%、第2回81%、第3回70%の参加率であった。 ・目標の70%に達した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新： 昨年度より分掌・学年・学科で担当者を決めたが、負担もあってか、担当者のトピックスの更新回数に大きく差があった。 ・リアルタイム情報共有システム： 保護者の約94%が登録し、昨年度よりも5%増加した。そのうちの約20名は現在も着信拒否が設定されている。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で参加者を役職のある方で、協議内容がある委員会の方に限定した。 ・役員会の案内を早めに配布し、ホームページにも掲載した。 ・会合の出欠票の提出が遅れている方には、連絡をし、ほぼ全員の出欠票を回収した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新： 今年度は各部活動のページを作成した。保護者へのアンケートについては実施できなかった。 ・リアルタイム情報共有システム： 着信拒否が見られた約20名の保護者には紙面で状況と対処法を送った。
評 価	A <ul style="list-style-type: none"> ・PTA 行事が殆ど無かったので、学校の様子を知る機会として、役員会の参加意欲が高かった。 ・連絡封筒の回収率が高く、担任を介しての連絡が良好であった。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・滑川高校は行事等も多く開催されている。しかしまだまだ滑川高校の魅力を発信できていない。HP自体が見づらい箇所もあるので改善の余地がある。 ・リアルタイム共有システムだけでは、全員に情報が伝わることは不可能と思われる。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に対しより多くの意見を得るためにも、P T Aの積極的参加や地域との連携・協力が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で行事が外向けにできず残念であったが、HPの充実とPRに努め積極的に発信してほしい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA だよりの編集については、会員の要望をより盛り込んだものを検討していきたい。 ・学校HPを活用し、P T A活動の予定や活動状況を会員に知らせ、参加者が増加するよう努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新に向けての協力体制は、始まったばかりである。多忙化解消も踏まえて、体制を整えていきたい。 ・リアルタイム共有システムに全員が加入するよう、引き続き呼び掛けていくとともに、学校ホームページとの併用で情報が全員に伝わるよう進めたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)